



福井大学教育学部附属義務教育学校

No. 04

令和3年12月21日

# 学校だより

## 令和3年度 社会創生プロジェクトの取組

本号では、現在子供たちが取り組んでいる「社会創生プロジェクト（以下、社創）について」紹介します。コロナ禍の中、取り組む内容が制限されてしまいますが、その中でも子供たちは工夫を重ねながら学習を進めています。

### 社会創生プロジェクト（社創）とは

平成30年度より始まった、文部科学省の研究開発指定を受けた新しい学習です。総合的な学習の時間や生活科と国語科をはじめ他の教科等と関連させた本校独自の学習です。

子供たちが未知なる将来を生き抜くための様々な資質・能力を育むことを目的としています。子供たちが主体的に課題を発見し、仲間と協働探究しながら、物事の本質を問い続け、省察しながら学びをつなげています。また、「発意－構築－遂行・表現－省察」の5つの過程を1つの探究サイクルとして構成し、このサイクルを繰り返していきます。このような学習を積み重ねることで、社会に意思をもって生き、自立的な学びができる子供を育てるために必要な資質・能力を育んでいきます。

### 【1年生】『学校の いろいろなものと なかよくなるう』

入学して以来、学校にいるお友達や2年生、先生方など、たくさんの人と仲良くなろうとインタビュー活動や名刺交換をしたり、学校にあるものを知るために学校探検や校庭探検をしたりしてきました。これらのことを通して、子供たち一人一人が「ふぞく」を大好きになって欲しいという願いを込めて活動を進めてきました。半年間の学校生活や社創の学習で、たくさんのかたちを経験し学んできた子供たちは、この後、大好きな「ふぞく」を、新しく入学してくる来年度の1年生に伝えたいという思いをもって、活動をつなげ展開していきます。附属幼稚園の年長さんとの交流や、1年間の学びの振り返りを通して、どのような2年生、学団のリーダーになっていきたいのか、一人一人の思いを高めていきたいと思えます。



### 【2年生】『みんな なかよし プロジェクト』

今まで取り組んできた「なかよし」をテーマに、2年生に進級してからは、新1年生となかよくなろうとプロジェクトを進めてきました。

第1弾「学校たんけんて なかよしプロジェクト」では、前年度から準備してきた地図を使って部屋

を案内しました。第2弾「やさいで なかよしプロジェクト」では、育てた野菜をおいしく食べるレシピを1年生に渡しました。野菜作りに対する思いをあわら市の麻王伝兵衛さん、野菜の效能をおばま食文化館の中田典子さんから学び、それも伝えました。

第3弾は、「うごくおもちゃで なかよしプロジェクト」です。回を重ねるごとになかよしポイントが分かかってきたり、意見を整理しながら進めたりすることができるようになってきました。また、大学生との交流から国語科の説明書づくりも含めて接し方のヒントをもらいました。クラスでお互いに刺激し合い、プロジェクト成功に向けて力を合わせる2年生です。



### 【3年生】：『えがおのもとって何だろう？』

身近な人へのインタビューから、「健康である」ということが、笑顔のものの一つであると考えました。そして、笑顔と「健康」がどのようにつながっているのかについて興味をもち、調べることにしました。コロナ禍の自分たちを振り返り、運動不足を実感する中で、家族の健康についても考えるようになりしました。そこで、家族の様子を観察・調査し、「自分たちが考えた運動で、家族をもっと健康にしたい！」という思いを抱きました。

健康運動指導士資格を有する専門家の方と出会い、一緒に運動し、お話を伺う中で、子供たちは、運動メニューを作っていくには、安全面に配慮することや相手を思いやることも大切であると気付きました。現在、『家族けんこう大作せん！』というプロジェクトが進行中です。家族のために、より安全で、楽しい運動メニューが作れるように、仲間とともに奮闘しています。



### 【4年生】：『幸せって何だろう？－「生きる」を考える－』

4年生は、昨年度から「幸せ」について考えています。昨年度は、おそうじ会社を設立し、カスタードリアル(※)として、校内の清掃を行いました。

今年度は、学校外を掃除したいと考えていましたが、感染拡大により思うように計画が進みませんでした。そこで、近くの公園の様子を調べた際、花壇を管理している方がいることを知りました。そこから、児童玄関周辺に「幸せの花」をたくさん植え、自分たちで花の世話をして育てることにしました。

今後の活動に向けて、新しい出会いを求めました。そこで出会ったのが、福井県ご当地アイドルヒーローの“はっぴーずまん”。長年、ごみ拾いを定期的に取り組み姿から学ぶことにしました。一緒に学校の周りのごみを拾い、たくさん質問をして、次の学びのヒントを見つけました。今後は、環境やリサイクル、福祉といった分野も視野に入れて学習を進めていきます。



※カスタードリアル：テーマパークなどで、園内清掃にあたる従業員（キャスト）

### 【5年生】：『未来へのピースを集めて、パズルを完成させよう』

これまでの社創の取組を振り返ったときに、“自分のこと”を中心に考えてきたという省察ができました。これからは、「自分のことだけではなく“周りの人”や“社会”のことに意識を向けていきたい。」という思いから、SDG sについて知ることからはじめました。世界的な取組を知っていく中で、より身近である福井県の未来をよりよい社会にしていきたいという思いが出てきました。そこで、県庁の方に来校いただき、様々な視点から見える福井県の課題と今後の展望について出前授業をいただきました。それを受け、自分たちが住んでいる地域がよりよい未来となることを目指して、今、自分たちに何ができるのかを考え、実行していきます。小さな行動も、みんなで続けていくことで大きな効果が得られると信じて、自分たちの未来を自分たちで創り上げていきたいと思えます。



### 【6年生】：『幸福井 未来想像・創造 プロジェクト』

5年生の終わりに行った出前授業で、「幸せ」をつくる要素の一つに「仕事ができること」があるということを知り、「自分達にできる『仕事』は何か？」という意識をもちながら、校内外の整備や清掃活動に取り組みました。

実際に仕事をしている人達とつながりたいという思いから、人材バンクの保護者の方々や、ふくい担い手づくりプロジェクトの方にインタビューをしたり、限られた時間内で自分達の学びをまとめたりする活動を行いました。また、ファイナンシャルプランナーの方にアドバイスをもらって「ライフプラン」を作ったことで、「仕事」をより身近なものとして捉え、修学旅行での様々な職業の方々との出会いを価値あるものにしたと感じています。

今後も、プロジェクトのゴールに向けて、また後期課程にもつながるように、全員で学びを継続していきます。



### 【7年生】：『畑ではたらけプロジェクト』

7年生は4月から7月にかけて学年目標決めを行いました。105人で目標を決めていく過程の中で、対立構造が打破できず、決定に近づいていかない苦しい状況を体験しました。そのような自分たちの状況を客観的に見つめ、共感しあい、個と集団の思考を高め、繋いでいくことが大切だと気づいた生徒たちは、「共鳴～自然となれ～」という目標を創りあげました。そして、夏休み中から現在にかけては「畑ではたらけプロジェクト」と題して、教室の隣の約180m<sup>2</sup>の土地を開墾しています。自分たちで0から作り上げたいという気持ちが活動の原動力になっており、全員が意欲的に活動しています。「鎌を使うのはこんなに難しかったのか」「農地にごみを捨てられるとつらいという気持ちがわかった」「土を掘って石をふるいにかけるだけでこんなに体中が痛くなるのか」と、やってみて初めて分かったことがたくさんありました。来年度の夏にはどんな作物ができるか、とても楽しみです。



### 【8年生】：『まちづくり』

7年生を終える頃「求められていること」を活動に取り入れていく必要性を感じ、8年生に向けた課題としました。そこで4月、学年全体で話し合い「やりたい活動」「できる活動」を加えて進めることを全員で確認しました。県立大学でまちづくりを専門分野としている先生からいただいた「まちづくりは手描きだ」という言葉をヒントに、文化祭では8つに再編された部門ごとに「目指すまち」を模型で表現し、11月には福井市役所の方に「目指すまちのための提案」を発信し、行政の視点からアドバイスをいただきました。12月には越前海岸各地区でのフィールドワークにおいて、地域おこしを行っている方の熱い思いを聴き、まちづくりとは何かについて考えを深めていきました。今後はこの学びを修学旅行につなげていきます。



### 【9年生】：『Happy World in the Future』

9年生では、オンラインイベント「Happy World in Fukui」の開催の後、附属の伝統である「学級演劇」に取り組みました。各クラスで決めた原作本の内容を学級での話し合いによって何度も練り直し、約1時間の作品へと仕上げていきました。クラスという互いの関係が深く密である集団においては、意見の違いが露わになり、活動が停滞していきました。うまくいかず、涙を流す場面もありました。

活動前は社創と演劇のつながりを見いだせずにはいました。しかし、活動後の振り返りでは、「困難な場面でも、社創で培った合意形成や協働の力などが生かされていた」という感想や「自分たちの社創のテーマは抽象的だったからこそ、無いものを生み出すという点で生かされた」という意見が共有されました。また、「演劇が終わった後は、会場みんなが笑顔であり、学校という小さな世界で『Happy World』が創り出されたことを実感した」という声も出ました。現在は、演劇は教科や社創なども含めたすべての学びを生かしているものではないかという考えから、附属での学び全体を省察し、発信する活動に入っています。



このように長期的なプロジェクト型学習を義務教育9ヶ年で発展的に積み重ねています。

今後は状況を判断しながら、異学年の児童生徒とのつながり、地域の方や社会とのつながりを大事にしながら、発信等も可能な限り行いたいと考えております。

保護者の皆様には、これからも「社会創生プロジェクト」での子供たちの学びを温かく見守っていただけたらと思っております。



よいお年をお迎えください。